

た当たちになったものでもと地どの心室らつ道人株で豊

紙面紹介 新年座談会 ポストグローバル が大革命100年 ロシア革 現代世界(下) 森田 現代世界(下) 森田	マ京区民センター/研究所デオ 2月24日出午後6時(予定) 2月24日出午後6時(予定) 主調での中国の一般のです。 1910年11月11日の 1910年の 1910 1910年の 1910年 1910 1910 1910 1910 1910 1910 191	テオリア大阪新年読書会 テオリア読書会(大阪)	た 、受け入れる方向に切り を や し た の た で た で た た た た た た た た た た た た た
ローバル化の世界は □ ーバル化の世界は □ シア革命の「意味」と 1 ~ 6 面 船橋邦子・丸川哲史… 1 ~ 6 面 船橋邦子・丸川哲史… 2 ~ 6 面	研究所テオリア (予定) 講演会	レズプラン編集長し	議論もある。中国の進め方 にある、と評価する見方。 事実として、中国政府は長期的な視点に立って20年単 位で回収を考えている(事 業主は国営企業ではあり、 それは可能である)。つま り、かつてのヨーロッパ帝 国主義のやったこととは違 うのではないか――そう いった議論もある。 「『一帯一路』で中国はアメ リカを凌ぐ」と称賛するな で、そういった単純な立場 もある。いずれにせよ、国 で的に中国は自由貿易の守 護者として振舞おうとして が働者の移動、この時「流 しかし元々中国におい て、流動化は階級移動を意 しかし元々中国におい

テオリアは古典ギリシャ語 $\Theta \epsilon \omega \rho \iota \alpha$ に由来する観察・省察などを意味する言葉。理論(theory)の語源です。

はっきりしている。 か、元の地主は低いところ 改革などがあって、階級的 なるのが中国であるのは シアに急速に移りつつあ て、覇権のベースがユーラ た。それが急速に変化しつ の世界はどうなるのか。戦 策は実現できない。 もできない。脱退とぶち壊 うまくいっていない。TP という孤立主義的なスタン が、その中でトランプ政権 時は、戸籍制度を通じて人 村から幹部が出て来ると 味していた。50年代に土地 ベースとする時代が終わっ ローバルな覇権が大西洋を つあると見るべきだ。グ 全て覆すという。しかし、 スを宣言した。国内的には、 は、アメリカ・ファースト り前からはっきりしている 程に入っていることはかな ゲモニーが歴史的に下降過 ていた。これが今日、横の 口の横への移動は抑えられ な流動化が生じていた。農 へとも言える。その中心に 後世界のアメリカ・ヘゲモ オバマ政権のやったことは ニーは大西洋覇権でもあっ しはできるが、公約した政 に置かれるとか。しかし当 (1面から続く) アメリカ・ヘゲモニー後 海洋覇権から大陸覇権 オバマケア廃止も「壁」 パリ協定から脱退した 大西洋覇権から アメリカの覇権、ヘ 。改革開 ユーラシア覇権 リカにまで、投資とインフ は中国ファーストではな 響くので、これは参加国み るといかにも中国のものに を取ってプログラム「帯路」 の復興という帝国的イデオ た。 船橋 中国の経済的力を実 ラ建設の手が伸びている。 中央アジアはおろか、アフ 移動が著しく激しくなり、 トを言い、習近平は、中国 強調するためだろう。トラ &R)に変えた。 ワンがあ 帯一路」(ワンベルト、ワン 際会議を120ヵ国参加で グラムとして

展開され始め になった。それが中華帝国 る必要と衝動を抱えるよう て、もはや世界の工場では な膨張が、質的変化を遂げ を柱とする資本主義の急速 空港など全て中国資本だっ いるザンビアに行った時。 感したのは娘が仕事をして く、世界を引っ張っていく ロード=OBOR)から 開いて、多くの国からトッ た 路」という巨大な開発プロ ロギーで表現され、「一帯一 なく、巨大な内部市場を持 放以来の中国の国家と外資 んなの共同プログラムだと つとともに、外部に膨張す ンプがアメリカ・ファース (ベルトアンドロード=B 〜が参加した。 このとき「一 5月中国は一帯一路の国 動いており、手を出しよう 議に来て、「アメリカ・ 処していく上で、この辺が とはできない。今後中国が さい。そうかと言って、中 則を語ったのだが、それは 連会議で大演説をして、中 近ジュネーブで開かれた国 張っていくのか。それが難 超大国、ヘゲモンであると がないことを裏書する発言 丸川 これらはいずれも借り物く のオンパレードだ。しかし 始まって、国連憲章、バン ウエストファリア条約から アジアは既に中国ペースで れにはびっくりした。東南 ファースト」と言った、あ トランプが東南アジアの会 違いない。 華思想で世界を引っ張ると 国の掲げる国際的行動の準 最大国家として世界で身を しいところだ。習近平は最 ないとすると、中国はどん 言う。この非対称は面白い。 な普遍的原理で世界を引っ 「泣き所」となることは間 中国の資本進出は西向け ン原則など、結構なもの しかし中国ファーストで ユーラシアシフトの背景 そうですね、11月に アへの関心と資本のシフト 摘されたように、ユーラシ て、中国が一元的に支配す ちの利益になるかを自立し であった。ただ、東南アジ 会議に出席しなかった。 も複雑な地域で、なかでも、 であるのは間違いないが、 ラシアにうつることを、単 地球上最大の大陸を中心に まではつながり、アフリカ ることは全くできない。指 ア諸国はどうすれば自分た 戒心で凝り固まっていて、 るし、インドは中国への警 シア経済連合」を作ってい でいる。ロシアは「ユーラ ンドという巨大国家を含ん 中国のほかに、ロシアとイ るユーラシアは、歴史的に 多くの国家や勢力が併存す 純にアメリカから中国に覇 違いない。 導部の頭の中にあるのは間 成するという構想が中国指 世界を政治的経済的に再編 に大規模に進出している。 て考えている国家群であっ ない気がする。中国が中心 権が移ると見ることはでき 七ディ政権は、 B&R北京 しかし覇権の軸心がユー むとういちよう 鉄道をあっと 帯一路で欧州 いう間に作っ でいる。イン てしまう。一 整備では高速 くに交通網の フラ整備、と と速度で進ん にすごい規模 るのは石油価格。上昇する り、計算しているのだろう ていなかったように見え と採算がとれるが、そうで こしを行っている、という たアクセサビリティーの悪 洋国家が見向きもしなかっ ある。先に述べたように、 れで破綻する)、という見方 ところの無謀な投資だ(そ 事」との対決は回避してい が特に合衆国の「資本+軍 が少ないところに行ってお 欧米海洋国家群の資本投下 る。中国は合衆国も含めた が起きているのに、日本は 点にして考えていた。梁啓 響を受ける前の清末の思想 での時期、ロシア革命の影 ないと厳しい。 こと。ただこの時に鍵にな 解っていてやっている節が ては、むしろ中国自身も がある。しかしそれについ 評価として、採算取れない 外務省を含めて、何も考え 家は、中国の近代化に関し いところに出かけていっ アメリカをはじめとした海 て太平洋(海洋思考)を起 て、「開発」可能性の掘り起 「一帯一路」政策に対する 実は20世紀に突入するま 方西側の経済学者の 丸 川 武 藤 退している。鳩山政権がう 明らかに日中経済交流は後 前後して徐々にユーラシア ら反米が出てきた。そして 国大使館を爆撃。この時か 丸川 年代にかけて、中国でもア 考えていた。その素地が 権までは中国要人が来日し 代後半の橋本政権、小渕政 が視野に入って来た。90年 あって1980年代から90 した新国家建設が可能かを まで、アメリカをモデルに 超から辛亥革命の時の孫文 ゴスラビア空爆で米軍が中 た。 メリカモデルが強かった。 アメリカ覇権を保障する マクロのレベルでは ところが99年、ユー 江沢民がそうだっ まるかわてつし くて、資本投 そうはならな まく行ってい 下は「西域」 た。それで日 向けに変わっ たはずだが、 同開発に行っ 島」 付近の共 れば、「尖閣諸 そも冷戦期において、東南 本は困るか、というとそう 来たものとして、インフラ ル化をめざしている。しか 国は国内的には産業や金融 策に至っている。現在の中 年)が発足する。そういう 延長にAIIB (2013) 協力機構」ができて、その 央アジアでいわゆる「上海 済権力、軍事権力、政治権 の関係で経済基盤を構築し アジア、韓国、台湾などと れまでの実績がある。そも るような何かをして来たと 済抜きでも日本が生き延び いうわけでもない。中国経 段であると言える。 フラ設備を「一帯一路」で もあり、今その余ったイン 建設で実力を養った国家で 流れで今の「一帯一路」政 えた。その頃、ロシア十中 力が今の時代ほどバラバラ て来た。しかし当時は、経 活用する――こういった篁 や技術の高度化、グローバ しこれまでの成長を支えて になってはいなかった。 戦略の破産 方で、中国の学者から ふなばしくにこ 政権になっ 泉政権、安倍 中合作) が消 て、その線(日 た。しかし小 を口説いてい ないかと、熱 心に日本政府 を共同開発し てユーラシア

2018年1月1日号 No.64

る。

テオリア

武藤

が。

武藤 もう一つ、太平洋の ないのだが(笑)。 の糸口がなかなか見つから る。端的に「マインド問題」 米追随以外の選択はしない 決定は自由でないのか。対 は、なぜ経済的自立度が高 度が高いように見える。で かあり、

そして

経済的自立 見ると、日本の保守政権は かに低い。つまり外側から 取べると、

外資の比率は確 経済的独立性があるように こいう結論になると、変革 い日本が(国際的な)政治 氏族資本を守って来た実績 **見えるという。**中国などと 9ると、

日本にはある種の いうマインドになってい

刀の将来はある、というも 致など含めて

軍事力の中心 略の太平洋シフト、空母の いるのだが、これは米国戦 まで太平洋に入れて 論じて 么平洋時代」という戦略的 務長官時代に、「アメリカの ヒラリー・クリントンが国 問題がある。2012年、 14力のある太平洋にアメリ を移す、そして最も経済成 を大西洋から太平洋に主力 **ふ論文を書いた。インド洋**

害を調整しつつ、

太平洋で はむしろ太平洋で、米中は のではないか。戦略的中心 に方針化はしていなかった ない。
おそらく
中国も
明確 た中国のユーラシアヘゲモ **| 孫を「複合覇権」という** 共存共栄をはかるというも 一大大国として、相互の利 ーーということを考えてい その時はアメリカは、ま だった。当時、私はこの

> とだった。 考えでまとめてみたたが、 さない、そういう状況のこ それは太平洋を挟んで両国 大国」が支配権を持って渡 他に対しては「われわれ」 を調整しつつ、共存するが、 は協力しかつ対立する関係

(2)

戦略はすべて破算する。 と、「複合覇権」下の太平洋 に変化している。そうする それが習近平政権で急速

事戦略はまったく不確定。 中は誰もトランプ政権にい ない。そしてトランプの軍 対日外交を牛耳ってきた連 ノーミテージなどこれまで

いる。しかし日本政府の側 ないといけない時期に来て 保問題は根本的に考え直さ た時にどうなるか。日米安 いるから、その大本が崩れ 略の部分として構成されて 恵もない。 にそれに取り組む元気も知 日本の軍事はすべて米国戦

中国に対抗する米・日・印 平洋の向こう岸、つまりア 四角形をつくる。これは太 直前、 はじめて成り立つという。 た。日本・インド・オース モンド」という概念を出し た。第二次安倍政権の成立 カと組んで新たに中国包囲 ら中国を仮想敵に、アメリ 参加。米日だけ参加しない。 メリカに足場を置くことで トラリア・ハワイを結んだ で「セキュリティ・ダイヤ 誌に短い論文を載せ、そと 網をつくる構想を持ってい もともと安倍政権は最初か て、世界のほとんどの国が 中国 は A I I B を 作っ 安倍は国際的政治雑

No.64 2018年1月1日号

(3) 武藤 みると、ユーラシアが、中 吸収しうるフロンティアと &Rのような形をとって で行った。そのなかで、B ついにリーマンショックま り、資本は金融に殺到し、 して出現しつつある。そう ユーラシアが大量の資本を ナビアから中東、インド、 正式の政策。弧はスカンジ 由と繁栄の弧」が外務省の 安保同盟のような構想だ。 して、実物経済での利益を わる中国包囲網。安倍は日 国だけでなく、世界資本主 上げられる投資先がなくな ASEAN を経て 日本で 終 政権についてからは「自 中央アジアが 世界資本主義全体と NO 衆全 ロンティアか を持っているのではない ア諸国も)。違っているが 構想とロシアの構想、また 想について言うと、中国の 丸川 そこでユーラシア構 か。 にヨーロッパは重大な関心 そういう効果を頭に、とく 命の場所となるかどうか。 義にとって、しばらくの延 ない。日本は国際政治的に りに励んできた。だが誰に 違っている(また中央アジ けている。 もまともに相手にされてい 完全にカヤの外におかれか 本首相として最多の外遊を インドの構想はそれぞれ してせっせと中国包囲網作 2017年5月3日 司 会 ミサイル危機」でトランプ のではないか。 う。アメリカの西部開拓と 動にとっても最前線になる 民衆と環境に破壊的変化を 見える。ヨーロッパはユー ある程度まとまって、アメ を双方がやって、チキン 武藤 この間、瀬戸際政策 批判していくか。 政権は軍事的選択肢を否定 リカ大陸の東から西に向 丸川 かつて合衆国はアメ 位置づけられることになる 資本主義の延命にとって、 同じ効果をもたらす。世界 武藤 このプログラムは、 ラシアの地続きとして視野 となく向かっているように きないエリアの形成になん リカのヘゲモニーが関与で いう状況。これをどこから 持しているのが安倍政権と していない。それを唯一支 いるが、朝鮮半島の「核・ かって開拓し、それが太平 可能性をもっていると思 もたらすに違いないので、 資本にとってと同時に、グ 新しいフロンティアとして に入って来るわけですが。 朝鮮半島問題の バルな民衆の解放の運 米国覇権は後退して 朝鮮半 本質に向き合え ない、無責任な振舞いなの の尻馬に乗って、やる能力 いる。日本だけがトランプ く危険な状況がつくられて レースになっている。ひど 丸川 船橋 語 機構全体として、日本語の が活発になっている。大学 中で交わる、といった具合 8年)。地政学的にユーラシ 平洋権力の形成、その突端 洋で終わる、ということ てきた。不真面目きわまり での制裁強化と言いつのっ 交渉の余地はない、極限ま もやる気もないのに、無責 語学科が半減し、ペルシャ Ć になる。 い。東西の両端の力が真ん だった(その延長線での太 任な戦争煽動をしてきた。 が顕在化している。 新設される、といった動き メリットが少なくなったの た回教徒がいる地域の研究 ル)の歴史が回顧され、ま 在の中国では元朝(モンゴ アはそのような構造ではな にあるハワイ併合が189 興味深いこととして、現 ウルドゥー語の学科が 幾つかの大学では日本 「一帯一路」政策の具 面白い。 化時代 <u>-</u>と とは何か、解決の道はどこ 朝鮮戦争は53年に休戦のま 終わらせることにある。こ にあるかをまったく言わな を話し合うのか。朝鮮問題 ない。 ども反発するだろう。ただ、 ると、おそらく中央アジア 軍事的比率が高くなりすぎ 丸川 を負わされて、膨大な利息 も起きている。 いるのだが、既に反中運動 地では様々な利害が絡んで という段階に来ている。現 スタンのグワダル港を中国 まだ戦争状態のまま、 まで、それからもう4年、 れが唯一の落としどころ。 い マスコミ・世論がはっきり のところ軍事的比率は高く 南アジア、アフリカ諸国な うというもの。 況。インドの警告は、これ 武藤 スリランカも同じ状 が租借する(警備している 体的な進展を見ると、パキ と向き合わないできた。 に、そのことに日本の運動・ や港が中国に取られてしま のはパキンスタンの警察)、 アメリカと比較すると、今 が払えなくなり、結局土地 く、話し合いと言うが、何 に参加すると中国から借金 マスコミは、戦争ではな 問題の根本は朝鮮戦争を 中国の関与において 冷戦 険 渉をやらず、体制崩壊をあ まま。この状態の中で、米 ほど敏感だった「巻き込ま の行動によって生じた危 わし、改憲世論を高め、自 会に、政権の腐敗批判をか 際政策を支持し、いやむし 府は、このアメリカの瀬戸 はない。いま展開している のは明らかに公平・公正で 国の政策、態度を不問に付 でなかったことは明らか 選んだ。これは賢明な選択 米国への対抗力を失ったD 導きたいという狙いがあっ 国による核軍事包囲・米韓 状態でもなく、戦争状態の れ」の危険ではないか。 衛隊の装備と行動をエスカ ろそれに便乗し、これを機 ないか。ところが、日本政 はなく、アメリカに向けら てにして核の軍事で包囲し PRKは核武装という道を れにたいして、ソ連解体で 東ヨーロッパ並みに崩壊に 提 に は、 D P R K の 体 制 を にあるのは、その安倍政権 だ。そうだとすれば、ここ にありつこうというわけ レートし、といった「余禄 ゲットは在日米軍基地では れていることは明白ではな RKの核ミサイルは日本で 危機は、主要にDPRKと して、DPRKを非難する 軍事演習が続いた。その前 いか。日本国土上のター つづけるというアメリカ帝 たし、いまでもそうだ。そ イメリカとの関係で、

DP 戦前と似たことが起こっ だが同時に、平和条約交 かつて日本世論があれ るべき。 戦で戦争が終わっていない 図的に消されてきた。平壌 船橋 慰安婦問題などが意 た運動の言説があってしか も)。歴史的モメントを入れ 復興、更に再独立の形態 武藤 朝鮮戦争を終わらせ 成。強力な反戦デモが起き 丸川 地支配への日本の賠償問題 争支持に行ってしまった。 識自体が戦争を必然化する は日本の生命線」という認 もしれない。しかし「満蒙 生命線」を認めた上で、 の生命線」と軍部が言って 後日本の歴史は朝鮮戦争を らに振り返ってみると、戦 が、忘れられている。「平壌 いうニュアンスがあった 丸川 「平壌宣言」にはそう るべきだが、起きない。 船橋 日朝運動をしている かないといけない。 非常に似ている。 産政党・労働組合までが戦 批判し、無力化することを くらかの政策批判をしたか わなかった。「満蒙は日本の いるのをおかしいと誰も言 ている。戦前、「満蒙は日本 きっかけに変化した(経済 メージで皆考えている。さ 宣言」は死んだというイ はっきり示さないと。 るというのが出口。出口を だと言っている。 を前提とした対話をすべき 数者を除けば)それを疑い、 こと、したがって(ごく少 宣言の問題でも、現在が停 しなかった。こうして、無 人たちは、国交回復し植民 非常に危ない。一線を引 武藤さんの意見に賛

塚空港に反対する連絡会 三里塚芝山連合空港反対同盟/元管制塔被告	の連絡先(三里塚空港に反対する連絡会)の連絡先(三里塚空港に反対する連絡会)
(通信欄に「管制塔集会賛同」と明版替 00180-5-56729日体3千円(公表可否の連絡を)	研究所テオリア 個人1千円、
、元管制塔被告団	/ 茨
1ス」上映/2部・集会 1部+2	〇1部「三里塚のイカロス」上映/2部・集会 〇3月25日回午前11時/連合会館2階大会議室 三里塚管制塔占拠闘争40年集会賛同を
研究所テオリア	
0 - 5 - 567296	1 半 8 年
期購読を	売 こ オ ー タ 一 、 ー く 一 く 一 く 一 く 一 く 一 く 一 く 一 く 一 く 一 く 一 く 一 く 一 く 一 く 一 く 一 く 一 く 一 く 一 く 一 、 つ し く 一 く 一 く 一 く 一 く 一 く 一 、 つ し く 一 、 つ し く 一 、 つ し く 一 、 つ し く 一 、 つ し く 一 、 つ し く 一 、 つ し 、 つ し 、 つ し 、 つ し 、 つ し 、 つ し つ し 、 つ し
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	○研 究 会 員・1ロ年1万2千円○特 別 会 員・1ロ年6万円研究所テオリア会費
云を	研究所テオリア入会を
(4面へ続く)	を考えると、中国、ロシア
朝	
関係を回復すればいい。そうちんと整理し、解決し、	ら、危うい国祭政冶をやっアメリカを天秤にかけなが
を歴史的問題を含め	指導者がロシア、
RK。 日本は DPRKとの	た枠組みであった。今は北
る当事皆はアメリカとDP	どう冬つらせるかで治まっ目身がそもそも朝鮮戦争を
0	大きな転換点。六ヵ国協議
が不満を持ち、声が上がる	組が消えたことが空気上の メループ 、 国協議 とい これ
る	~
部は全て更迭され、パイプ	と同じ
ノŇ	されている。北朝鮮でも、
<u>出てんとことしている</u>	れくらい意識が完全に操作の場の名気が悪くたる。そ
上ら至いうこうこうる。	り易りと気が悪くなる。そも朝鮮問題を語るだけでそ
	運動をやっている人間で
	知らされていない。
を入れた国家間チャンネル	というのをほとんどの人が

№.64 2018年1月1日号	テオリア	(4)
隠される階級 「西域」に向くことになっ た要因として、日中関係が た要因として、日中関係が た。2012年に尖閣問題 た。2012年に尖閣問題 た。2012年に尖閣問題 して翌年AIIBが立ち上 して翌年AIIBが立ち上 して翌年AIIBが立ち上 ど して翌年AIIBが立ち上 で のか、安倍政権は「中国 つ として、日中関係が	ユーラシア覇権国との キャロのNGOネット ワークとも交流している。 たっているのか本当のとこ なっているのか本当のとこ たされている たされている。 たされている。 たされている。 たされている。 たされている には都 できてから出てくる問題。 していている。 していている。 しているのか本当のとこ たたい。喫緊の たたいの しているのか本当のとこ たたいの には都 たたれが には都 たたれが している。 たたれが している。 たたれが しているのか 本当のとこ たたの子 たたい の考えは変わったように思 たたの子 たたい ので、その子 たたの子 たたい ので、その子 たたの子 たたれが している してい ので、その子 たたの子 たたれが してい してい の たた たたい の たた の たた の には 都 市 の 開 知 に に な たた の か 本 当の たた の で 、 た の で の た た の で の た た の た た の た の た た た の た た の た の た の た た の た た の た の た の た の た の た の の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の た の し の た の た の の た の た い う に 世 で の た の た の た の た の た の し の し の し の し で し い う 運 し で る 、 と い う 運 一 で の た の た の た の た の た の た の た の た で で で で で で で で た の た の た の た で で で の た の し の た の た の た の た の た の た の た し し し で た の た の た の た で で で で の た の た の た の か た で た に し の た の た の た の た の か た で の か 本 当 の た の か 本 当 の た の か に し で の た い の し で い し の た い つ た の た に し で し の か た の か し で し の た の か し の か ら 出 こ し で し の し の か し し の か し の か し し の し の し つ し つ し の し の し の し の し の し の し の し の し の し の し し の し の し し の し の し し の し の し の し の し の し の し の し の し の し の し の し の し の し の し し の し つ の し の し し の し し の の し の し の し の し し つ し つ し つ し し の つ し つ し の つ つ つ し つ の つ し つ の つ つ つ し つ し つ つ つ つ し つ の つ し つ つ つ し つ つ の つ つ つ つ し つ つ つ し つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ	(3面から続く) (3面から続く) (3面から続く) (3面から続く) (3面から続く) (3面から続く) (3面から続く) (3面から続く) (3面から続く)
時間	heta 電 b c	丸川 麻生副首相は総選挙 を批判する演説をやったら を批判する演説をやったら すがった」などと述べ ていた。 言っている。彼はときどき 言っている。彼はときどき
一次では大平洋からユーラシア や、ということになるのか。 中国は今「西域」に向け で資本とヒトを大規模に動 いるのか。最も欠けている段階だ が、国内政治はどうなって が、国内政治はどうなって が、国内政治はどうなって にるのか。最も欠けている としている段階だ にあって に向け に向け にたいる に向け にた に れども、実は階級上昇は に るのか。 し に の に の に に し に し に し に し に に し に に し に に し に に に に に に に に に に に に に に に に に に に の に に に に に の に に に に の に の に の た に に の の の の	中国、インド、ロシアな その近代化のプロセスにお その近代化のプロセスにお が、日本の市民運動は差別が強 りにはヨーロッパ型ででき でいる。 ている。	しが行ってきた個人権を 無 しがちな傾向があった。 しかし今後、 なっていた。しかし今後、 なっていた。しかし今後、 なっていた。しかし今後、 の知識人はそのことをかな り考えている。
1968年と今は 司会 2018年は20世紀 で、安倍政権が記念行事を か。 計画している「明治150年る。これ た「1968年革命」から 今も変わ た「1968年革命」から 今も変わ	今こそ階級論が必要である うとして「商品形態」が主 たった。それ以降、経済の だった。それ以降、経済の だった。それ以降、経済の だった。それ以降、経済の だった。それ以降、経済の たった。それ以降、経済の たった。それ以降、経済の たった。それ以降、経済の	ずっと貧しいままで、共産 で、かわいそうな彼ら(都 市下層)を何とかしなけれ ばならない――こういった ことに参与するNPO組織 は実は増えていた。 中国の今を論じるには、
りる名年と今は 切れたものではない から100年 る。これをどう見ていくの が記念行事を か。 「明治150 船橋 私にとって「196 が記念行事を か。 「明治150 船橋 私にとって「196 が記念行事を か。 「明治150 船橋 私にとって「196	ない このの した した した した した した した した した した	各国のナショナリズムと調 わしながら働く、再編成し トランプ政権は国連人口 基金などへの資金は全て カットしたように、あらゆ るところで人権は破壊され ている。 ている。
した。院生で作った全闘連 した。院生で作った全闘連 行った。あのときの問いは 行った。あのときの問いは そった。あのときの問いは ここズム運動でつながって シェンダーがあり、男性と ジェンダーがあり、男性と ジェンダーがあり、男性と	し たとえば文科省再編で男 いる。ジェンダーの問題 で下げ止まらない。一方 に行くことになってい なっとして男女共同参画室 たで下げ止まらない。一方 に行くことになってい なして、 数育支援法案が出て ていきた。しかし、今のトラ たって、親学」など親の道徳 そ「親学」など親の道徳 ていきたい。 たい。 たい。 たちて などで国家が家庭へ介 な たい。 たい。 たい。 たい。 たい。 たい。 たい。 たい。	入してくる。 入してくる。 これたの世界を変革す して根本的解決をもとめて して根本的解決をもとめて
されるようになった。	だという主張は十分に理解 に対して、女性学・ジェン なして、女性学・ジェン なしているが。フェミニズム から評価すると、ローザ・ ルクセンブルグがもっと取 したがして、女性学・ジェン なって、今なお、それは続 いている。 本主義システムはあり得な	今井澄さんや最首悟のイン タビューと一緒だった。私 で働きながら運動をしてい た。 では「個人的なことは政治 のなこと」、つまり私的領域



2017年12月15日=沖縄·名護

れる社会の実現はあり得な 決していかない限り、一人 又長制の問題をきちんと解 抜けていた。

資本主義的家 義的家父長制という問題は ときに、男性優位の資本主 をどう問い直すのかという の反乱」を書いたが、近代 たった。山本義隆が「知性 0 人の人間の尊厳が保障さ 東大闘争の時にもそう

> くる。 具体的なビジョンが見えて 社会を私たちは望むのか。 北京行動綱領、女性差別撤 いくと、先ほどのSDGs、 廃条約などから、どういう

3つのテーマは根底のとこ 開発・平和」の三大テーマ。 議で提起されたのは「平等・ ろでつながっている。 75年の最初の世界女性会

明治100年」と

明治150年」

明治100年なんて頭にな 中。

闘争に追われていた。 船橋 68年は学生運動の最 考えていたのか。 として当時の活動家はどう 府行事を行っていた。 対比 政府は明治100周年の政 反応していた。その一方で、 さて、学生運動はそれらに ム反戦、パリ五月革命が起 **丸川** 1968年はベトナ

あったのかなと。 れている。それへの批判が 桑原武夫など、代表的な戦 の委員を見ると、岡本太郎、 丸川 後民主主義知識人も集めら 68年はちょうど日本が資 明治100周年行事

いたのか。 武藤 闘争の焦点にはなら

新100年をどうとらえて でしたね。活動家は明治維

本輸出国になっていく時期

かった。

テオリア

「になっていた。この支配体」		義が抑圧体制として初めて動が起こった。戦後民主主	現れた。それまで民主主義	ま国力つ川つぼ口ど	1960年と1968年の	としては#	印で行われていた。	印で行われていた。	の側の旗印で行われていた。 「日本」のの側の旗印で行われていた。 「日本」の一般の方で行われていた。 「日本」の一般の方で行われていた。 「日本」の一般の方で行われていた。 「日本」の一般の方で	供給しては しては しては して した して した の 旗印 で 行われ して に あ の の に た 1 の に た 1 の ほ い で 行われ の た い で 行われ の た の に あ の の に ち り の た い の た の し て し て し た の し の た の し で し て し て し た の た の た の の に う に あ る 。 の の に ち の の た の の た の の た の の た の の の た の の の の の の の の の の の の の	生を、アメロシャンクロション してにありの か、今は5 か、今は5 か、今は5	たままで、 たままで、 たままで、 ないで、 な	伝想 理 仏 丹 (4) (5) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	麻 伝 恩 理 仏 内 編 社 そ 0 の 麻 体 そ 0 の 原 化 合 に と 1 の の ア い 方 た 子 い 方 で 行 わ 齢 で 行 わ 散 で 行 わ む の の の ア い 方 で わ い た 子 い 方 で わ む の の の で 行 わ 散 で う い 方 で わ む の の の の の の の の の の の の の の	は排伝の連理な時間でしての (排伝の着を、こので、 してたして、 してたました。 には、 なので、 なので、 ででした。 のので、 ででした。 のので、 ででした。 のので、 ででした。 のので、 ででした。 のので、 ででした。 のので、 ででした。 のので、 のので、 でででは、 のので、 のので、 でででは、 のので、 のので、 でででは、 のので、 のので、 でででは、 のので、 でででは、 のので、 のので、 でででは、 のので、 のので、 でででは、 のので、 のので、 でででは、 のので、 のので、 でででは、 のので、 のので、 のので、 でででは、 ののででは、 のので、 ののので、 のので、 ののので、 のので、 のので、 ののので、 のので、 ののので、 ののので、 のので、 ののので、 のので、 のので、 のので、 ののので、 のので、 のので、 のので、 ののので、 ののので、 ののので、 ののので、 ののので、 のので ののので、 のので のので	流振る悪理なので、 横谷の編のでものの 一次の 「なの でで たった。 で たった。 に し なった。 の の の に た の の の で で た の の の の で で で た る の の で で し て の た の の の で で し て の た の の の で で で し て の た の の の で で で し て の た の の の で で で で で で で で で で で で で	ノ流排伝想理仏内の 旗体としの メとにもして シレン シレン シレン の 一般 し し し し し し し し し し し し し	ノメロシーズの がの着を、 に、 なってした。 した。 した。 した。 した。 した。 した。 した。
ロートロートのこう		AB	で丸	- 義 C 主 運 体 ⇒ 国 明 で 丸	す国明で丸	と 女 の 義 C 主 産 体 シ ら 19 す 国 明 で 丸	国 ら 19 す 国 明 で 丸	世国ら19す国明で丸	い 世 国 ら 19 す 国 明 で 丸	あい世国ら19す国明で丸	をのあい世国ら19す国明で丸	えをのあい世国ら19す国明で丸	人えをのあい世国ら19 す国明で丸 の方樿通っか紀革れ世。 黄治し川	新人えをのあい世国ら19す国明で丸 をの方模通っか紀英れ世。 英治し川	(新人えをのあい世国ら19す国明で丸)	立新人えをのあい世国ら19す国明で丸 をの方模通っか紀革れ世。 革治し川	な 立 新 人 え を の あ い 世 国 ら 19 す 国 明 で 丸	な 立 新 人 え を の あ い 世 国 ら 19 す 国 明 で 丸
	十国革命	1日本命	がやることは全くそれとは		は 一日 に い の に い た 、 し か し 政 し か た 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	 中国革命	甲国革命 関争があって、しかし政 がやることは全くそれと がやることは全くそれと がやることは全くそれと で、一般的な世論のなか て、一般的な世論のなか	甲国革命 関争があって、しかし政 がやることは全くそれと がやることは全くそれと で、一般的な世論のなか て、一般的な世論のなか て、一般的な世論のなか	甲国革命	甲国革命	甲国革命 「国本の 「国本の 「国本の 「国本の 「日本 「 「日本の 「日本の 「日本の 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「							
	ものと想像する。19世紀的ニュアンスが加わっているた。フミフ第三世界的た	(ヨーロッパ的)なものとものと想像する。19世紀的こっアンスが加わっているな、フシフ第三世界的た	ジア内ならの)ならのとし、シア内ならの)ならのと想像する。19世紀的(アーマンスが加わっているものと想像する。19世紀的してよりは、20世紀的ものと想像する。19世紀的	て明治の精神を位置づけてて明治の精神を位置づけてしてよりは、20世紀的(アリア的なもの)なものとしジア的なもの)なものとしがアかなもの)なものとした。19世紀的	た、フジフ算三世界的たた、フジフ算三世界的たちのと想像する。19世紀的 (ヨーロッパ的)なものとし してよりは、20世紀的(ア ジア的なもの)なものとし て明治の精神を位置づけて	たっアンスが加わっている ものと想像する。19世紀的 してよりは、20世紀的(ア ジア的なもの)なものとし ジア的なもの)なものとし て明治の精神を位置づけて	よっ フシフ 第二世界的 たっ アンスが加わっている ものと想像する。 19世紀的 の 常神を位置づけて で明治の精神を位置づけて で明治の精神を位置づけて	た フジフタ E世界的た	たっアンスが加わっている ものと想像する。19世紀的 (ヨーロッパ的)なものとし て明治の精神を位置づけて で明治の精神を位置づけて	たっアンスが加わっている ものと想像する。19世紀的 (ヨーロッパ的)なものとしてよりは、20世紀的(ア ジア的なもの)なものとし て明治の精神を位置づけて	よのと想像する。19世紀的 (ヨーロッパ的)なものとしてよりは、20世紀的(アジア的なもの)なものとしてよりは、20世紀的(アジア的なもの)なものとして明治の精神を位置づけて	たっアンスが加わっているものと想像する。19世紀的 (ヨーロッパ的)なものとしてよりは、20世紀的(アジア的なもの)なものとして明治の精神を位置づけてて明治の精神を位置づけて	ホーフシア第三世界的ためのとして にしてよりは、20世紀的 についる シロンスが加わっている たっアンスが加わっている してよりは、20世紀的 のためのとし で明治の精神を位置づけて にて 時かれるのとし	ホーフシアク目世界的ためのとして 時代の たっアンスが加わっている たっアンスが加わっている してよりは、20世紀的(ア ジア的なもの)なものとし て明治の精神を位置づけて でしている	ボカロシスが加わっているものと想像する。19世紀的に、20世紀的(アジア的なもの)なものとして明治の精神を位置づけてて明治の精神を位置づけてして明治の精神を位置づけてものとして明治の精神を位置づけてものとして明治の精神を位置づけてものとして明治の精神を位置づけてものとして明治の精神を位置づけてものとしても少いのもののとして明治の精神を位置づけてものとして明治の精神を位置づけてものとして明治の精神を位置づけてものとして明治の精神を位置づけてものとして明治の精神を位置づけてものとして明治の精神を位置づけてものとしている。	では、フジフター世界的ためのとして、1000000000000000000000000000000000000	・ニュアンスが加わっている ものと想像する。19世紀的 してよりは、20世紀的(ア ジア的なもの)なものとし て明治の精神を位置づけて で明治の精神を位置づけて	では、20世紀的 に、20世紀 に に、20世紀 に、20世紀 に、20世紀 に に に に に に に に に に に に に
ユヨ 与 憲 去 り	的なもの、 市憲法の 発	の戦後憲法に繋がる要素と世紀的なもの、つまり日本 世紀的なもの、つまり日本 20	び上がらせて、と言えるひの世紀的なもの、つまり日本 して明治の民衆精神を浮かして明治の民衆精神を浮かして明治の民衆精神を浮か	五日市憲法の発掘は彼によ る仕事だが、これもまた20 ではないか。	五日市憲法の発掘は彼による仕事だが、これもまた20 ではないか。 ではないか。	五日市憲法の発掘は彼による仕事だが、これもまた20 ではないか。 ではないか。	五日市憲法の発掘は彼による仕事だが、これもまた20ではないか。ではないか。	です。 本 が ら せ た 、 と れ も ま た に 繋 が る 要 素 る 要 素 る 要 素 る 要 素 る の そ 深 精 神 を 浮 素 に 、 と れ も の 、 つ ま り 日 お の 、 つ ま り 日 お の 、 つ ま り 日 お の 、 つ ま り 日 お の 、 つ ま り 日 、 か ら せ た 、 、 こ れ も の 、 つ ま り 日 お の 、 つ ま り 日 か ら せ た 、 、 と 、 、 つ ま り 日 か ら し ま た の 、 つ ま り 日 か る の 、 つ ま り 日 か 。 の 、 つ ま り 日 か る の 、 つ ま り 日 か る の 、 つ ま り 日 う ち の 、 つ ま り 日 ち の 、 つ ま り 日 ち の 、 つ ま り 日 ち の 、 の 、 の 、 の 、 の ま い 素 か る の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の ま の た の 、 の 、 の ま の た の 、 の ち の 、 つ ま り 日 う ろ ろ ち の ろ ろ ち ち こ た こ た こ た の ろ ろ ろ 年 か う ろ ろ ち ち ろ ろ ろ ろ ろ ち ち ろ ろ ろ ち う ろ ろ ろ ろ ち ろ ろ ろ ち ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ち ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ち ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ち ろ ろ ろ ろ ろ ろ ち ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ	です。 本がらせた、 と言える る で がらせた、 と言える	です。 本がらせた、と言える からせた、と言える の発掘は彼に	市 市 たが ら せた が ら せた 、 こ れ も ま に 敷 が る 要 が る 要 所 る 要 が る 要 が る 要 方 る 男 の た が 、 こ れ も ま た が 、 の も の た が 、 の も の で の の し の の の の の の の の の の の の の の の	です。 では、 でのでのでのでので、 でのでのでのでので、 でのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでの	五日市憲法の発掘は彼によ 1968~69年東大闘争	です。 していた。 して	です。 本がらせた、 と言えの を消神を要素 日 た に 整 の に 整 が る の に 整 が る の に 整 が る の に 整 が る の に 整 が る の 、 の も の た の 、 の も の た の 、 の も の た の 、 の も の た の 、 の も の た の 、 の も の た の 、 の も の た の 、 の も の 、 の も の 、 の も の 、 の も の 、 の も の 、 の も の 、 の も の 、 の も の 、 の 、 の も の 、 の 、 の 、 の ま の 、 の も の 、 の 、 の 、 の 、 の も の た 、 の 、 の も し ま の 、 の 、 の も し ま の 、 の 、 の も し ま の 、 の 、 の も ま た で 、 の 、 の も ま た で 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の も ま た で 、 の 、 の 、 の し ま た の 、 の 、 の も ま た に 、 の 、 の も ま た に 、 の 、 の も ま た に 、 の 、 の 、 の し ま の の 、 の し 、 の し し ま の 、 の 、 の 、 の し 、 の し 、 の 、 の し 、 の 、 の 、 の し 、 の し し 、 の 、 の し の 、 の 、 の し 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の し の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の し の 、 の の の 、 の 、 の 、 の の 、 の の の 、 の	ながらせた、これもまた、これもまたに、これもまたに、これもたい。	です。 なからたたが、 これもまたで たたで、 と言える の の 発掘は彼 に 繋 が ら を に 繋 が る の の 、 の に 繋 が る の の 、 の ま の に 繋 が る の の 、 の ま の に 、 と れ で あ も の 、 の ま の 、 の ま の 、 の ま の 、 の ま の 、 の ま の 、 の ま の 、 の 、 の ま の 、 の 、 の 、 の ま の 、 の 、 の 、 こ れ ま の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の ま の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の ま の 、 の の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の	です。 ながらせた、 と言えの を消せるまして、 と言える でする でする でする でする でする でする でする です
こしてし 必重にノーン	かし、差別をなくすというラッシュを受けている。し	方向は確実に前進していかし、差別をなくすという	と思う。 と思う。	きつって、 台庫香意蔵を たっは確実に前進してい る。世界的に見てもそうだ と思う。 自分たちが生きている。し	ラッシュを受けている。し うっと思う。 おって、地域の中で相互に と思う。 し分たちが生きている日 し分たちが生きている日	あが見されないような空間 なが見されないような空間 を思う。 もって、地域の中で相互に もって、地域の中で相互に もって、地域の中で相互に もって、地域の中でもこという たちが生きている日 を思う。	たちが生 たちが生 しれない に見をたけ に見	にたちが生き、 たちが生き、 たちが生き、 たちが生き、 たちが生き、 たいけるか。 やして、 当事者	にたちが生き、 たいけるいよいで、 当事者の たちが生き、 たいけるか。 ながら、 少したいけるか。	倍 は変革の たちが生き たちが生き たちが生き たちが生き たちがまる ないけるいよ の や に前進 で、 当事者	「年」 倍 は変革の、 しちが生き したけるいよう したけるいよう したけるいよう したいけるいよう したいけるいよう したいけるいよう したいたる したいた したいたる したいた し したいた したいた したいた したいた したいた し したいた し し し し し	にたち、 たち、 たち、 たち、 たち、 に、 当事考 で、 当事考 で、 当事考 で、 や、 当事考 で、 や、 、 少 や、 し、 たち、 の に 前 進 で、 から、 少 や で、 う が ら、 の や ま た の た の た の た の た の た の た の た の に 前 進 の た の た の に 前 進 の た の た の に 前 進 の た の た の に 前 進 に 前 進 の た の た の た の に 前 進 の た の で の た の で の の の の の で の の の の の の の の の の の の の	戦 「大年」 倍 した に い な が ち が 地 域 の た ち が 能 二 を 受 け て 、 当 事 き 、 の や し ち が に 前 進 て で 、 当 事 き た ち が に 前 進 た ち が に 前 進 の た ち が に 前 進 の た ち が に 前 進 の た ち が に 前 進 の た ち が に 前 進 の た ち が に い た い た ち が に 前 進 の た の た い た い ち が に う が に う が に う が に う が に う が に う が に う が ち が ら 、 の い し つ た い ち が ら 、 の い し う が ら 、 少 や ち の い よ い う の い よ い ち の い し う が 、 の い し う い た い ち い し つ か い こ い う い し い こ い た い い し い こ い た い し い た い し つ か い し つ い こ い た い し う か い し い し い し つ か い し つ か い し つ か い し つ い し い し つ か い し つ か い し つ か い つ つ い し つ つ い し つ い つ い つ い つ い つ い つ い い つ い つ い つ つ い し つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い し つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ い い つ い つ い つ い つ い つ い つ い つ つ つ つ つ つ い つ い つ つ い つ い つ つ つ い つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ	これないよい。 によいいいいで、 一倍 にないたちが にないたちが にたちが にたちが した した した した した した した した した した	、これない。 によい、 なまで ながら、 少 で れまで れないよい。 たち が に に ながら、 少 で 、 少 で 、 の や また ちが 生 に よ い ち 、 い よ い ち 、 い ち い よ い ち 、 い ち ち い ち い ち い ち い ち ち い ち い ち い ち い ち ち ち い ち ち ち ち ち ち ち い ち ち ち ち い ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち	べ、こ戦らス年 で、 改憲で たちが に たちが に たちが に ながら、 少 中 たちが に に が 地域の 中 た な た ちが に に 前 進 を 受 けて、 当 事 考 と な い た ち が に 前 進 た な た ち が に 前 進 、 一 で 、 当 事 考 た で 、 一 、 一 で 、 一 、 一 、 一 で 、 一 、 一 で 、 一 、 一 、 の に 、 一 で 、 、 一 で 、 、 一 で 、 、 一 、 の 、 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の で 、 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の の 、 の 、 の の の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の の の の 、 の の の の の の の で 、 の の の の の の の の の の の の の	た。 、 なまで た 、 で 、 、 た 、 た 、 た 、 た 、 た 、 た 、 た 、 た 、 た 、 た 、 た 、 た 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	にた。 、 た。 、 、 た。 、 、 た 、 に た 、 に た 、 に た 、 、 た 、 に れ よ い た い よ い た い よ い た い た い た い た い た い た い た い よ い た い よ い よ い よ い よ い よ い よ い よ い よ い よ い よ い よ い よ い し い よ い 、 少 い よ い よ い よ い よ い し こ れ な い 、 少 い よ い 、 の か い よ い 、 の か い よ い 、 の か い よ い 、 の い よ い 、 の か い よ い 、 の か い よ い 、 の か い よ い 、 の か い 、 の い 、 の い し 一 か 、 の い し い 、 の い 、 の い 、 の い 、 の い 、 の い い 、 の い 、 の い 、 の い い 、 の い い 、 の い い 、 の い い 、 の い い い い い い い い い い い い い
いいい。弘夕頂或まご国家	いう運動を展開していくとが介入してくるのにノーといこと。私的領域まで国家	ころからしか、社会は変えいう運動を展開していくといこと。私的領域まで国家	そのためこ、政治こどうとのためこ、政治にとっ、私的領域まで国家でいけない。	あって可た。 ために、政治に しか、社会は で、 のに、 のに、 の に ノ しか、社会は で め に、 政治に の に、 の に の	がボトムアッ がボトムアッ を送り出してい を送り出してい で、 の治に、 の治に、 の治に、 の治に、 の治に、 の治に、 の治に、 の治に	そてへく動き、るのにノ であってい。 「を送り出してい」 「か、社会に、政治に、 で、 「ない」 「ない」 「ない」 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	いこと。私的領域まで国家 いう運動を展開していくと ころからしか、社会は変え ていけない。 そのために、政治にどう いう人間を送り出していくと 民主党がボトムアップと 民主党がボトムアップと マっているが、草の根から くっていきたい。	を送り出してい を送り出してい を送り出してい でにい。 にか、社会にい で たいの に の に い で に の に 、 の 行 の に い の に 、 の 行 の に の に の に の に の の に の の に の の に の	を展開してい でで、	戦 「 しか、社会のに、 で しか、社会のに、 の が ボトムアッ い。 で きたい。 して い るが、草の根 してい く るのに、 の 治に、 の 治に、 の 治してい く るのに、 の 治してい して い の に、 の お して い の で して い の 、 社会に い の に、 の お して い の に 、 四 た の に 、 の お して い の で あ して い の で 、 れ ら に 、 ひ か 、 社会の に して い の 、 れ ら に 、 の 、 れ ら に 、 の 、 れ ら に 、 の 、 れ ら に 、 で 、 れ ら に 、 の に 、 の 、 れ ら に 、 の に 、 で 、 の に 、 の に 、 の お い 、 で の の に 、 の お の に 、 の に 、 の お の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 、 れ ら に 、 の に 、 、 か 、 れ ら に 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 、 、 し て い 、 の に 、 の た い ら に 、 の の に の に し て い に 、 、 、 、 い ら に し て い ら に い ら の に い の に し て の に 、 、 の に し て い ら い ら に し て い ら の ら に し て い ら 、 の に し て の の に し て の の し て の の ら し て の の に し て の の に し て の の し て の つ の し て い く の し て の し て の の に 、 、 、 し て の し て の の に 、 、 こ の ち て の の し て の の た い こ の ち の の の の し て の の し て の の し て の の し て の の し て つ の の し つ の の し て の の の の し て つ の し つ し て つ の し て つ の つ し つ の つ し て つ つ の つ し つ し つ し つ し つ つ つ つ し つ し つ し つ し つ つ し つ つ し つ し つ つ こ つ こ つ つ つ つ つ こ つ つ つ つ つ し つ つ つ つ つ し つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ	に不利な にて、 した に、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で	る。。 市町 ・ 「 、 で 、 な 、 で 、 な 、 な 、 な 、 な 、 な 、 な 、 な	はっきり押さ に、 で、 和な が、 や に、 の が、 た の に、 の に い こ の の に、 の に の に 、 、 の に 、 、 、 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 、 、 の に 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	はっきり押さ なが、 や で た 不利な状況 た で た で れ の に 不利な 大 の の に 、 で の に 、 で の に 、 で の に 、 で の に 、 で の に 、 の の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 、 、 し て の に 、 、 、 つ に 、 、 、 の に 、 、 、 つ に 、 、 、 、 し て の に 、 、 、 つ に 、 、 、 、 つ に 、 、 、 つ に 、 、 、 つ 、 、 、 つ 、 、 、 つ 、 、 、 つ 、 、 の 、 、 、 、 つ の に 、 つ 、 、 の 、 の の に 、 の の に 、 の 、 の 、 、 の の に 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の の 、 、 こ の の 、 、 、 の の 、 、 、 、 こ の 、 、 、 、 こ の 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	いこと。私的領域まで国家 が介入してくるのにノーという運動を展開していくと ころからしか、社会は変え ていけない。 そのために、政治にどう いう人間を送り出していくと 言っているが、草の根から 言っているが、草の根から だが、はっきり押さえて だが、はっきり押さえて	い、わたしたちは必ずしも い、わたしたちは必ずしも	いこと。私的領域まで国家 が介入してくるのにノーという運動を展開していくと ころからしか、社会は変え ていけない。 そのために、政治にどう いう人間を送り出していく とっているが、草の根から 言っているが、草の根から だが、はっきり押さえて だが、はっきり押さえて たが、はっきり押さえて	いこと。私的領域まで国家 が介入してくるのにノーと ころからしか、社会は変え ていけない。 そのために、政治にどう いう人間を送り出していくと 言っているが、草の根から たが、はっきり押さえて おくべきは、この2年くら おくべきは、この2年くら

て改憲勢力は、反対派に押 (6面へ続く)

伊藤は、安保法制をめぐっ 議の伊藤哲夫が2016年 9月に発表した提案だが、 安倍改憲の種本は日本会

制反対闘争以後の、改憲を る、という奇妙奇天烈、自 衛隊に触れた3項を追加す 9条2項をそのままに、自 のと見るべきだ。 己矛盾した提案は、安保法 めぐる力関係を反映したも

月3日の安倍の改憲提案、 世論も沸騰した。われわれ をあげたと見るべきだ。5 のこの反撃はかなりの成果 きい反対運動が起とった。 この企てにたいして、大

ずっていったことだ。

る」とすることで、憲法を は海外派兵を許す憲法であ とにした。 点は安保法制。現行憲法の 文言を変えぬまま戦争を許 同作戦までできるというと 下で海外派兵、米軍との共 ということは「この憲法

す憲法という位置に引き

二段階戦略になった。つま り前進して、本来は憲法を 勝手に変える、彼らはかな えずに、解釈を閣議決定で きた時期。憲法の文言は変 法が変わっていく条件を の実質は最大限変えてい り、一応憲法の文言は変え 間はそれが急速に行われて 作っていく。その後、4年 ないが、政治・社会・軍事 変えないとできないこと んどんやってきた。その頂 を、解釈を変えることでど く。熟柿が落ちるように憲

ちに静かにやろう」という

それで麻生ナチス憲法発言 (13年)の「気づかないう だが、それは挫折した。

いっきに作る。 続する、そういう
憲法を **正して、国家像を戦前と接** 日指した。戦後をすべて否 した。安倍は一段階革命を 命かという式の選択に直面 スば一段階革命か二段

階革 した。それで、左翼的に言 た。ところが、完全に失敗 **感の出発点になる筈だっ** こ祝いたかった。これが改 広へ向けて

出発する

日とし 冶憲法との接続を図る新憲 惟は国家にありとして、明 か。主権在民をやめて、主 安倍にとって何を祝う

っことにならなかった。 のた日。どこをとっても祝 異にとっては東京裁判を認 に基地が永久に残る日。右 日。安保条約によって日本 にアメリカに投げ渡された けで、沖縄にとっては永久 と安保条約の発効の日なわ ワンフランシスコ

講和条約 し、大失敗した。4・28は、 り出すつもりだった。しか 家主権主義の

憲法改定に

走 のような主権在民否定、国 を据えて、

自民党憲法草案 法を作りうる状況になった が終わったのでやっと

新憲 ハティブに総括して、

占領 た。これは戦後を完全にネ 回復の日」政府式典を行っ 閣が成立。4・28に「主権 えなかったのか。 3項で自衛隊を入れるなど しようとした。そこに原点 記念日として国民の祝日に こおかしな提案をせざるを 12年12月、第二次安倍内

№.64 2018年1月1日号	テオリア		(6)
ブルジョア革命の時代へ 赤続革命の時代へ 赤続革命の時代へ たの資本主義的中枢国では かつての「下からの革命」 してい しての美術によって、それなり しば中 にありましたが、周辺国で ます。 してい たからの革命」 してい してい してい たからの たからの 本式 たからの 本式 たからの 本 た の た の た の た の た の た の た の に よって、 それなり しば中 してい しば中 してい しば中 してい た が 、 周辺国で た が 、 の 、 の に よって、 で に よって、 で に よって、 で に よって、 で に よって、 で に よって、 で に し で に よって、 で に か らの 支 に 、 た が 、 周辺国で に ま 、 周辺国で に ま で に よ っ で 、 た か らの で に し で に よ っ で 、 た が 、 周辺国で し 、 、 た が 、 周辺国で し 、 、 、 、 、 、 、 の 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	日本資本主義の再生にとっ Internet internet intern	攻」にでなければならない たが。最後のところまで行っ たが。最後のところまで行っ たが。最後のところまで行っ でいる。だから、3項加憲 でいる。だから、3項加憲 なが出てくる。 ここで彼らにとっての天 祐が起きた。朝鮮民主主義 がつて吉田茂は朝鮮戦争を	したがって、これから「反防戦一方だったと反省し、し込まれ、受け身に回り、(5面から続く)
命の時代から 代へ田 かわな課題がほとんど達成さ れてないにもかかわらず、 すでにブルジョアジーが反 しば中枢国のブルジョアジーが反 しているという状況にあり ます。では、こういう場合 に誰が、あるいはどの階級	1000000000000000000000000000000000000	その上、民進党解体の政 その上、民進党解体の政 たたらしたボーナスも たがもたらしたボーナスも た成功しているが、刻刻変 た成功しているが、刻刻変 たんなしたが必要だ。 でおくことが必要だ。 でおくことが必要だ。	はこの危機を利用してかなての天祐だったろう。安倍朝鮮半島危機は安倍にとっての「天祐」だと述べた。
か、これが決定的な問題に が、労働者と農民の連合な が、労働者と農民の連合な が、労働者と農民の連合な が、労働者と農民の連合な が、労働者ととによって、国 参入したことによって、国 参入したことによって、国 参入したことによって、国 が、それにもかかわら ず、遅れて資本主義世界に が、それにもかかわら です。周辺国においては が、それにもかかわら です。この課題を実現するの	の 軍 て、問題を国会の憲法審査 田	小の中には、安倍改憲を阻力の中には、安倍改憲を通り上げていく、そして、次の日本国家を続けて、次の日本国家をつなげて、次の日本国家をつなげて、次の日本国家をつなげて、次の日本国家をつなげて、次の日本国家をつなげて、次の日本国家を行しい。	ただし、安倍改憲反対勢ることはできるだろう。動」とのこれまでの共闘方動」
よ。後にトロツキーが「歴 そうした諸国では、労働 そうした諸国では、労働 ではなく、いきなり都市部 ではなく、いきなり都市部 ではなく、いきなり都市部 ではなく、いきなり都市部 ではなく、いきなり都市部 ではなく、いきなり都市部 ではなく、いきなり都市部 ではなく、いきなり都市部	田成現現	めというのが新9条論。は でないと、安倍改憲をつ うでないと、安倍改憲をつ うでないと、安倍改憲を もし、それへの内部的、対外 し、それへの内部的、対外 にた後はどうなるか。72 がした後はどうなるか。72 がした後はどうなるか。72 がっそれをきちんと書き込 い。それをきちんと書き込	発な議論を広げていく。そ社会全体の中で、自由で活反対陣営全体の中で、自由で活らに閉じこめず、安倍改憲
いては、社会主義者によって組 します。そして、周辺国にお ない がいまだ残っていま 強い絆がいまだ残っていま 強い絆がいまだ残っていま しまで 農民階級とのあいだには しまで して、 周辺国にお した 税 と急速な 産業 の た の た の た の た の に よ る 激 の 志 の た の に よ る 激 た の に 、 お っ た の に に よ る 激 の 志 の た の に 、 名 二 面 の 古 鹿 の ち 一 に よ る 激 の ち で た の に 、 名 二 重 の 吉 二 重 の 吉 二 重 の 吉 二 重 の 吉 二 重 の 吉 二 重 の 吉 二 の の た め に 、 安 定 し た 次 に 、 日 ま で 売 の た の に 、 程 た の に 、 を 定 し た 来 に 、 記 の 声 に し て 、 記 の 正 の 声 に い た づ に 、 知 王 の で た う 一 に 、 記 つ に い だ に い た の に に 、 つ た の に 、 に 、 つ て い た に 、 つ し て 、 記 の の 昨 に い た 、 で し て 、 記 つ し て 、 し れ こ つ し て 、 に し て 、 に し て 、 に し て い だ に に い で に い た 二 い 二 て い に に は っ て い た 一 で の 作 い た 、 で し て 、 、 し て 、 一 、 一 、 つ し て 、 一 、 一 て 、 一 の に 、 つ し て 、 つ し て 、 し て 、 し て 、 一 、 つ し て 、 し て 、 て し て 、 て し て 、 し て 、 一 で あ っ て 、 て ろ し て 、 て こ し て 、 て の た こ て し て 、 て い こ て こ て し て 、 こ て い こ こ つ て い こ て こ こ こ こ て い こ こ つ て い こ こ つ て い こ こ つ て こ つ て こ こ つ こ こ つ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ こ こ つ つ こ つ つ こ つ こ こ つ こ つ こ つ こ こ つ こ つ こ こ つ こ つ こ こ つ こ つ こ つ こ つ こ つ つ こ つ つ つ こ つ こ つ つ つ こ つ つ こ つ つ つ こ つ こ つ つ つ つ つ こ つ つ つ つ つ こ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ こ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ	非 常学院 大学 が学 (下)	す。そしてこれらをタブー 問題をどうするのかを出 問題をどうするのかを出 問題をどうするのかを出	ような日本国家に向かって原則化した場合に次にどのいのか。
(より正確にに紹ろまう) (より正確にに紹ろます。こうして、時代は、 資本主義国を主要な舞台とした「ブルジョア革 命の時代」から、周辺資本 主義国を主要な舞台とする 「永続革命の時代」へと大 その最初の萌芽が187 その最初の萌芽が187 その世線」と上昇し始めて いた「永続革命の時代」へと大 きく転換するのです。 その最初の萌芽が187	■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■	いとかとは関係なく、今中 引用しているとと 丸川 習近平が良いとか悪 憲章など世界史的 丸川 習近平が良いとか悪 憲章など世界史的 丸川 習近平が良いとか悪 憲章など世界史的	いでおいて、行動や思想を次の展望、提案を出さなていく。
約1570(後も上昇を新じた) 第二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、	注目してもよい、と思われ す。すでにこのとき、ボナ す。すでにこのとき、ボナ パルト帝政の崩壊と共和制 の実現は、パリという一都 市だけですがプロレタリア た。しかし、まだ労働者 した。しかし、まだ労働者 した。しかし、まだ労働者 はすぐに崩壊しました。 けれども、「永続革命の曲、	2020年オリンピックが る。 それに対して、こちら側 が個々の対応だけではなく て、いかなる次の日本社会 いといけないと思う。 事用していることにもっと	い。すでに天皇代替わり、これでって改憲に持ち込みたことして、一挙に雰囲気をこのを利用して、あるいは起い

いて感銘を受けました。 厨う――武藤さんの話を聞 にして「9条」をめぐって になる。憲法前文とセット **ろう。それが議論の出発**点 恵法前文にあたるものであ 界史的な理念とは日本では る。では日本はどうか。世

ではないという言い方もあ り立つ。その一方で、そう とと同じという言い方も成 国主義論で

批判していると いることは、レーニンが帝 える。中国がやろうとして 種の実験ではないか、と思 の思考を鍛えるためのある をどう見るかは、

自分たち が今やっている「

一帯一路」 中国に話を戻すと、中国

的状況が発生します。中国 はるかに大規模な永続革命 接国である中国において、 の1927年には、東の隣 か、ロシア革命から十年後 では失敗に終わりました 9 ルギーを弱めていたからで しかし、西の隣接地域

かとなったメンシェヴィキ にロシアでその破産が明ら させたため、すなわちすで ショア政党に無理やり従属 命の路線を拒否して、中国 ルンが中国における永続革 の支配下にあったコミンテ 単命が起きたのです。 の路線をいっそう俗悪にし 残念ながら、スターリン

> とやってきたこと。これは 外せない議論になる。 れから(国際)政治を考え る。グローバルな経済の流 ていくことは、左派がずっ

なる、ということを最後に 強調しておきます。 議論においてはここが鍵と 世界をどう作るか-ない。ポスト・アメリカの 政図が変化することに関し い。中国、ユーラシアの地 考える姿勢がないといけな も、そういう世界的視野で ベルであまり意識されてい て、まだ日本の市民運動レ 日本の社会運動の中で ーとの

ざいました。 司会 今日はありがとうご

りました。 は数年間の内戦の末に敗北 起きたスペイン革命でも同 た。そのさらに一〇年後に 石によって粉砕されまし た形で実行したため、蒋介 じ過ちが繰り返され、革命 し、フランコ独裁に道を譲

命の時代にナポレオン戦争 軍の進駐によって労働者国 スラヴィア、朝鮮半島、ベ です。その他にも、ユーゴ 訪れます。これが一連の戦 りましたが、「永続革命の時 が、これは、ブルジョア革 家が上から建設されます ます。東ヨーロッパでは赤 頂点をなすのが中国革命 後革命であり、その最大の 世界大戦後に第二の頂点が 代」のエネルギーはまだ失 トナムなどで革命が起こり なわれてはおらず、第二次 (第二次中国革命)の勝利 そのような紆余曲折はあ

した。こうして第一次中国 ら

共産党に

組織されていま かなされ、

労働者は最初か 集中した資本主義的工業化 シア以上に都市部における では20世紀になってからロ

てのように、フランス大 革命を頂点とする「ブル ジョア革命の時代」という二つ の時代を対比することで、 の時代を対比することで、 つけが見えてきます。では、	後のインハクトをも生きの び、結局、1968年革命 ロシア革命の	した先進諸国にまで達した した先進諸国にまで達した 時間でした。 しかし、先進資本主義国 の強力な支配体制はこの最	した世界的衝撃が、ぐるっ うれたノント さい このマル うみにロシア革命が生み出 らかにロシア革命が生み出	はよって行なわれた周辺地域への「外からのブルジョ ア民主主義革命」です。 この「永続革命」です。 この「永続革命」です。 この「永続革命」です。 に、欧米先進国を含む世界 や学生や農民が大規模した シア革命や中国革命です。1千 心を担ったのは、やはりロ シア革命や中国革命に鼓舞
の頂点たるロシア革命は何 でルジョア革命の役割は さい封建体制を打倒して近 代社会を作り出すことで す。しかし、それが革命的 手法で実現されたのは西方 ヨーロッパだけです(アメ ヨーロッパだけです(アメ	世界史的位置づけ	「火売車命の寺弋」を冬馬しているので、労働者国家したがって、ソ連東欧の崩したがって、ソ連東欧の崩したがって、ソ連東欧の崩同国は実質的に資本主義化同国は実質的に資本主義化	にの予測はついに1989 く91年のソ連・東欧の崩壊 として現実化したのです。 もちろん、中国では共産	でした。この最後の頂点が でした。この最後の頂点が でした。この最後の頂点が を描きましたが、それが事 を描きましたが、それが事 を描きましたが、それが事 を描きましたが、それが事 を描きましたが、それが事 を描きましたが、それが事 を描きましたが、それが事 を描きましたが、それが事 を描きましたが、それが事 を たって補完されなければロ と う 測しましたが、ロシア を 後の 見 の た 進国への 最後の 名 の の 名 の の 名 の の 名 の の 名 の の 名 の の 名 の ろ の の ろ の に を の の 、 り 7 9 年の 二 の ろ の に を 加 の た の に の の に の た の に の に の た の の に の た の た
革命の第一の世界史的「意革命の第一の世界史的「意	をえたい その創出という歴史的 代社会の創出という歴史的 において初めて、すなわち、 において初めて、すなわち、 しおいて初めて、すなわち、	それたい。そり意味でブレーをない。そり意味では終わらずに労働者階階では終わらずに労働者階階では終わらずに労働者階	るかぎりでですが)その変しかし、農民と同盟したして近代社会を実現するとによる正しい指導が存在すによる正しい指導が存在す	で革命を起こしたわけでは ない)。しかし、そのヨー にとどまったし、ヨーロッ にとどまったし、ヨーロッ にとどまったし、ヨーロッ に引き継がれました。そし に引き継がれました。そし に引き継がれました。そし に引き継がれました。そし にないし反動化したブル がっア革命の歴史的使命 がって、その実現主体は、保守 でないし反動化したブル
は、 勤労者の権利や女性の した場合も含めて、 によって た場合も含めて、 によって た場合も含めて、 によって たち、 男女 の意味で、 ロシア労 した に に 追 に に し の の た り、 男女 た り、 男女 た り、 男女 で 、 の うの も、 の マ シア 労 本 主 義国も、 ロ シア 労 、 男 女 の 読 世 ざ る を え な い 状況に追 に 追 い し 、 助 労 者 四 素 で 、 に り 、 男 女 で 、 に り 、 男 女 で 、 の き 、 に う の も 、 ロ シア 労 、 勤 労 者 の た で 、 に い よ 況 に 追 い し 、 の ち 、 の ち 、 て 、 の ち 、 て 、 の ち 、 に う の も 、 て り 、 男 女 で 、 の 大 い 大 況 に に ら で 、 の ち 、 て 、 の 大 に に こ の し 、 の う た し 、 男 女 で 、 の ち て 、 て 、 の 、 て 、 て の 、 で 、 て 、 で 、 で 、 の う で 、 の ち 、 て う で 、 の ち 、 て う で う で 、 の う で で 、 で て 、 の 、 て 、 の 、 て 、 つ う て で て う で 、 の 、 て う て 、 つ 、 て う て て て て 、 て て 、 て 、 て て 、 の 、 て 、 の 、 て う て 、 て う 、 つ 、 つ う て 、 う 、 つ て 、 つ ち て 、 つ 、 、 つ 、 つ て 、 の ち て 、 つ こ て う て う て 、 つ 、 つ た か ら て て て つ て う て て 、 て て つ て て 、 て 、 つ て 、 て こ て て 、 て 、 て 、 つ て 、 て て て て 、 て て つ て 、 て て 、 つ て 、 つ こ て て 、 つ 、 て て つ て 、 つ て て つ 、 つ つ ろ て ろ つ つ て こ こ て て つ つ つ つ て つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ	こ易合ら合わていこよって 1917年のロシア革命」と れた社会的変革(「革命」と れた社会的変革(「革命」と	ス主義皆を含い土奈主義皆と含い土奈主義皆と含い土奈主義皆と含い土奈主義的なインションでとらえることがです。したがって、今日いです。したがって、今日	たる知識人が大勢いたぐら の方がまだ人々は安定した り自由で幸福であったと考 り自由で幸福であったと考	しかし、ロシア革命は単 に19世紀レベルの近代社会 を実現したのではありませ ん。フランス革命は自由、 形式的平等、ブルジョア民 主主義を普及しましたが、 ロシア革命は勤労者の権 社会は現在から見ると、 そったく不自由で、恐ろし えったく不自由で、恐ろし
す。これまでの至達点カ至す。これまでの至達点か至	し。これを20回達点が至け。これを20回達点が至けると、私は預言者でないはできません。	しょうか? E直こ申し上代であると考えるべきでけるのならば、次は何の時けるの時代」の終焉と位置づ命の時代」の終焉と位置づ	このことを逆から証明し へと移このが、「永続革命の時代」	権利や少数民族の権利を重 その典型的な形態です。 その典型的な形態です。
「永紛革命の時代」にまじ ので、戦後の高度経済成長 を、しかし、今日の資本主 を、しかし、今日の資本主 を、しかし、今日の資本主 を、しかし、今日の資本主 をであり、勤労者の権利 を賃金を切り下げることで、 と賃金を切り下げることで と賃金を切り下げることで と賃金を切り下げることで とした中で、人類と	「水売車令り寺代」こです。 その一方で、二つの時代 を経た現代資本主義は末期 を経た現代資本主義は末期	た下安定で下月確な寺や たいるわけでもない。そう ているわけでもない。そう	やと移行しつつあります。	の終焉とともに現代社会が の勝級的規範と労働者農民 の階級的規範と労働者として、こうした動 るへ、社会福祉と社会的平等 から自立自助とレイシズム へ、少数民族の尊重から新自由主義 の階級的利益に依拠した可 ルクス主義組織から、人権 的規範を一顧だにしない宗
	はしたいと思います ネグリはかつてのブル ド=多数派というものを変 ド=多数派というものを変	こしたいと思います。 では、ネグリの議論を紹介して、 ヴェイの議論を紹介して、 この問題を考える手がかり このにおける変革の主要な	ずそう呼んでおきましょずそう呼んでおきましょしい手、その階級的主体の時代」とりあえないでした。では、「ポストでいでした。では、「ポストでした。では、「ポストでした。では、「ポスト	本命の時代」と「永続革命 では、こうした危機的状況に対抗して新しい時代を の時代」と「永続革命

テオリア

№.64 2018年1月1日号

(7)

ですが、これによる被害者

ています。 式である

「略奪による

蓄積」 な議論に陥ってはいませ ハーヴェイはそういう単純 かしばしば見られますが、 もうだめだから、別の変革 みに、

最近、

労働者階級は として想定しえます。ちな 兄、労働者階級が変革主体 統的な労働組合

・労働者政 いので、ここにおいては伝 畜積」もなくなってはいな 週常の「

拡大再生産による 貌しつつあります。しかし、 による蓄積」よりも後者の こは、前者の「拡大再生産 目由主義的資本主義におい 本主義の発生以

来常に存在 く「略奪による蓄積」です。 式的な交換関係をも

蹂躙し 槓」です。もう一つは、形 わち「拡大再生産による蓄 られている蓄積様式、すな は、『資本論』で主要に論じ いると言っています。一つ 王な蓄積様式にもとづいて リェイは資本主義は二つの 収)でも話しましたが、ハー (『テオリア論集1』に所 唱えています。以前の講座 分けて、二大変革主体論を ~は、もう少し対象を切り それに対して、ハーヴェ れだとあまりにも漠然とし に根ざした意見ですが、こ す。これはそれなりに現実 土体を求めようという議論 さて、もう一つの蓄積様 と置くような蓄積体制に変 こ富を暴力的に蓄積してい 「略奪による蓄積」に重点 し続けましたが、 今日の新 この二つの蓄積様式は資

座の記録にもとづいて、 け出さなければなりませ は実に多種多様であり、こ 社)ほか多数。 ルに学ぶ「資本論」」(作品 勤講師。著書に『ラディカ 森田成也 望とを媒介するものを見つ 闘いを遂行しながら、すで を参考にしつつ、この「ポ 等々。蓄積様式の二つのタ る第三世界の女性労働者、 金融的略奪の犠牲となる小 なった人々、都市の再開発 農民、地球温暖化で住み慣 第二の変革主体になりうる の略奪の対象になる人々は ん 争とこのシステム変革の展 を堅持する必要がありま そのものの克服という展望 労働者の権利を守ったり、 持つ必要があります。日々、 スト永続革命の時代」にお を想定できるというのが イプに応じた二大変革主体 低賃金で過剰搾取されてい 生産者、住宅ローンで買っ れた土地で生きていけなく 第三世界で土地を奪われる 演者が加筆修正) 座の記録にもとづいて、講 す。当面するさまざまな闘 に取り組んだり、そうした 性差別と闘ったり、反原発 新自由主義やレイシズムや いて、変革の長期的展望を た住宅を取られる労働者、 出される旧市街地の住民、 で住み慣れた地域から追い と考えられます。たとえば、 に末期状態にある資本主義 ーヴェイの議論です。 われわれは、以上の議論 国学院大学非常

№.64 2018年1月1日号	テオリア	(8)
と お ち の 4 の 年 は 2 0 4 0 4 0 4 0 4 0 4 0 4 0 年 に 上 2 0 5 の に た る 2 0 5 の に た る 2 0 5 の に 上 る と い る た に 上 る と い ち の に 上 る と い る た い る た い る た い る 土 地 問 題 研 究 空 的 の て 前 有 着 不 明 土 地 問 題 研 究 会 に に 上 る と い る 土 の 、 地 は て の の て た し て い る た い る た い る た い た し て い る た し て い る た し て い る た し て い る た い た し る 約 く 二 ら の 「 所 有 着 不 明 土 世 問 題 研 究 二 し る の に 、 地 は 、 、 世 し こ の の 「 所 有	だ。 などで所有者不明土地問題とは が行われず放置される大郎 になっているというで、登記変更の がで、空き家問題など たた。 などで所有者不明土地に関する たた。 なっているとして が、のるにも関わらず、登記で所有者が変わってい などで所有者が変わってい などで所有者が変わってい などでがるとして たた。 たた。 たた。 たた。 たた。 たた。 たた。 たた	
設予定地での所有者不明土 して、リニア中央新幹線の建 本方針」(骨太 して、リニア中央新幹線の建 て、リニア中央新幹線の建 したの 「7年9月12日のNHK 17年9月12日のNHK 17年9月12日のNHK 17年9月12日のNHK	中国作用作作作用。 「所有者不明土地」には江 「所有者不明土地」には江 「所有者不明土地」には江 「所有者不明土地」には江 「所有者不明土地」で となるいわゆる「負動 を信「成長戦略」で を倍「成長戦略」で を倍「成長戦略」で を倍「成長戦略」で を倍「成長戦略」で を倍「成長戦略」で を倍「成長戦略」で たが、被災地などでの「所 有者不明土地」は以前から た。このような土地問題」だ。 それは17年度になっていたのに、な それは17年6月の「経済	「見て反灸也」を奄なごを統合データベースの構築、記義務化、所有権放棄制度、記義務化、所有権放棄制度、北円になるという推計を出
益性のある事業目的に使え るようにする新制度の創設 者が現れた場合に備えて賃 料相当額を補償金として法 務局へ供託。明け渡しを求 められれば原状回復した上 で返却するとしている。 収用委手続きが 収用委手続きが 水		同じ日、「ITHELEを報じている。 東海が対策に追われたこと を報じている。
「建築物がなく、反対者もいない利用されていない土地を対象に、公共事業の場合は都道府県知事が権利取得などを裁定する土地収用得などを裁定する土地収用得などを裁定する、」「道路や河川など土地る。」「道路や河川など土地し、審理手続きを省略し、収用する公共事業の場合は利用権を設定する。」「道路や河川など土地を恒久的に利用する公共事業の場合は利用権を設定する。」	「道路や河川などの公共 事業で用いる場合、土地収 用法の手続きを通素化す る。居住や事業に使われて いない場合、小屋などがある収用委員 る機会などがある収用委員 るようにする。」(日本経済 知事の裁定で権利取得でき るようにする。」(日本経済 の審理を省き、都道府県 で公共事業を進めやすく するため、国や自治体が土 で公有化を決定できる手続きをで し、手続きを通素化す る。」「所有者が見つけるな たり、手続きを通素の対象を 割査の対象を 親族のみ にする。」(毎日新聞17年12 の にする。」(毎日新聞17年12 16 17年12 17年14 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17	ようなものだ。 若法案骨子の内容は以下の 業での土地収用に関する特
産税)を減らさないために、 土地放棄を認める制度に消 極的だった。とっくに破綻 した「土地神話」に一番し たったのだ。 それが今度は防災対策や それが今度は防災対策や それが今度は防災対策や それが今度は防災対策や であうというわけだ。「所有 者不明土地」対策の化けの アをはがさなければならな	要するに、これまでは必要するに、これまでは必要するに、これまで、これまでは必要するに、これまでは必要さなの、都道府県知事のも、何しろ、所有者不明土地問題がたいに怪しい。何しろ、所有権取得のなのだ。 た地は値上がりした原因は、これまでは必ず、 たが転換しようとしなかった たの「反対者」として認めた、 た地は値上がりし続けるのも、「反対者」として認めた。 た地は値上がりした原因は、 た地は値上がりし続けるが、 たった たのだ。 たり、一方者不明土地問題がとこまで深刻化した原因は、 たして認めた。 たして認めた。 たして認めた。 たり、 たのにの方者」として認めた。 たり、 たり、 たのでの主地に、 たかられるのかは大いに怪しい。 たいうべブル時代までの土地にある。 財政基盤が施 たいうにある。 たの た たの た<	2月4日) (日刊建設工業新聞、17年 町け渡しを一本化して裁定 明け渡しを一本化して裁定
	空港機能拡張による人権・ 環境破壊を許さない! に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	三里塚1·14 三里塚1・14 三里塚1・14 三里塚1・14
。 回の書面を起こって、 一次の書面を した。一審 一般で、 した。一審 一般で した。 一審 一般で した。 一審 一般で した。 一審 一般で した。 一審 一般で した。 一審 一般の の に した。 一審 一般の の の に あ した。 の 市 の で た っ た う た う た う た の た う た の た う え た の の た の ろ ん て 争 る る る ら ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ	地を取り上げようとしてい た。この結果、空港会 で しかし、住民の生活を破壊 してでも一部の利害関係自治体は住 してでも一部の利害関係自治体は住 してでも一部の利害関係自治体は住 してでも一部の利害関係自治体は住 してでも一部の利害関係自治体は住 してでも一部の利害関係自治体は住 してでも一部の利害関係自治体は住 してでも一部の利害関係自治体は住 してでも一部の利害関係自治体は住 してでも一部の利害関係自治体は住 してでも一部の利害関係自治体は住 た。しかし、住民はこれに してでも一部の利害関係自治体は住 た た。しかし、住民はこれに た た た の た た た た た た た た た た た た た	・14東峰現地行動の反対同盟旗開き&

抜こう! 日時:2018年1月14日 川秀夫) 反対同盟(代表世話人・柳 土催 :三里塚芝山連合空港 ■2018反対同盟旗開き し、三里塚農民と共に闘い し闘わなければならない。 争の一環としても位置付け S 火の軍事的インフラであ して戦争遂行のための不可 さに兵站基地、出撃拠点と に留まらない。 空港こそま 済的な利潤追求という要因 る土地強奪である。 わらない公権力の行使によ 上げは強制代執行と何ら変 裁判所を使った土地の取り **古が行われた。このような** 時から裁判所による強制撤 行い、5月31日深夜午前0 ロ市場支部に撤去の申請を けて空港会社は千葉地裁八 刊決が確定した。それを受 月上告棄却の決定を下し、 TZ, し、控訴棄却の決定を行っ 公判で突然結審を言い渡 訴審の東京 高裁は 第1回の に認める判決を下した。控 で空港会社の主張を全面的 の呼びかけ 2 第3滑走路計画」を 上告した最高裁は16年7 空港反対の闘いを反戦闘 新滑走路の建設は単に経 1・14三里塚現地に結集 撤回しろ!

東成田】 13 12:41着 成田→13:52発 ②京成東成田駅地上 14時 $^{+}78_{-}810_{-}1$ 5/電話:FAX0479 山武郡芝山町香山新田99-る連絡会 連絡先:千葉県 00分集合 迎えの車待機/ 東峰共同出荷場に車移動 終了後(午後2時頃)→旧 ①2018反対同盟旗開き 会場への行き方 場所:旧東峰共同出荷場跡 古新基地建設反対!三里塚 再稼働やめろ!沖縄・辺野 計画を撤回せよ!反原発— 山千代田行き]→10:37着 換え 京成本線(普通) [芝 10:32発 京成成田→乗り →10:21着 京成成田→ 合 東成田駅地上 11時00分集 場 主催:三里塚空港に反対す 田行き]→13:57着 東成田 成本線(普通) [芝山千代 京成成田→乗り換え 京 向けてデモ 1) /集会後、開拓道路に 日時:2018年1月1日 飛行制限時間緩和を許さな ■三里塚1・14東峰現地行動 香山新田131/0479 ター(千葉県山武郡芝山町 1 · 14 東峰現地行動 い!成田空港「第3滑走路」 参加費:1000円 (千葉県成田市東峰65-(日)午後2時30分 【09:13発 京成上野特急 (日) 正午 前:横堀農業研修セン 迎えの車待機